

令和 5 年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立きのくに青雲高等学校定時制

校長名：宮本 裕司

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

・教育活動を通して、社会におけるルールやマナーなど社会生活に必要な社会性を養う。

・社会的自立に向けた基礎学力やコミュニケーション能力を身に付け、適切な職業観・勤労観を持ち、地域社会に貢献できる資質・能力を育成する。

・学校生活を通じて、自己肯定感、自己有用感を高め、互いの多様性を認め合い協働することができる姿勢を育成する。

・平和で民主的、持続可能な社会の形成に向けて、主体的に参画できる資質・能力を育む。

学校評価の公表方法

・育友会総会等を通じて保護者への周知を図る。

・ホームページに掲載する。

現状・進捗度	A	十分に達成している。（80%以上）
	B	概ね達成している。（60%以上）
	C	あまり十分でない。（40%以上）
	D	不十分である。（40%未満）

自己評価（分析、計画、取組、評価）							
番号	計画・取組				評価（3月8日現在）		
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	・生徒の多様な状況に応じた教育を丁寧に行い、基礎学力の定着を図る。	B	・生徒の多様な状況に応じた授業を工夫し、達成感や自己肯定感を養うことに取り組む。	・達成感や自己肯定感を養う授業を実施する。 ・単位取得率の向上を目指し、卒業率90%を目指す。	B	生徒の多様な状況に応じた授業を展開した。卒業率は85%にとどまり、目標値をわずかに下回った。	・卒業率は、年度当初の卒業予定者の85%にとどまった。次年度以降も卒業率の向上に向けて粘り強く指導を行っていく。 ・公開授業の対象を保護者だけでなく、学校運営協議会委員や教職員に広げ、授業改善を図りたい。
			・教育内容を精選し、社会貢献や実社会で役立つ学力の向上に取り組む。	・卒業後に自立した市民として役立つ力を育む授業を実施する。 ・ふるさと和歌山への興味・関心を高める。	B	実生活に役立つ基礎学力の向上を目指し取り組んだ。地元和歌山の文化についての学習を行った。	
			・公開授業や研究授業を通じて、授業改善を図り、言語活動の充実を中心に据えた魅力ある授業を継続する。	・公開授業または研究授業を教員当たり年1回以上実施する。 ・「書く」「話す」活動を中心に言語活動を充実させる。	B	公開授業を年1回実施した。「書く」「話す」活動を中心とした言語活動を行った。	
2	・地域の外部機関とのネットワークを活用し、自己の在り方・生き方をデザインするキャリア教育を計画的に行い、社会的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力の育成を図る。	B	・個人面談や面接指導等を積極的に行い、進路希望の実現に取り組む。	・学級担任や進路指導担当者との面談を密に行う。 ・就職指導員を活用し、希望の実現を図る。	B	卒業予定者と学級担任や進路指導担当者で面談を行い、希望進路実現に向けて指導を続けたが、一部進路未定者もあった。	・サポートステーション和歌山との連携に力を入れ、卒業年次の生徒は当然のこと、低学年や既卒者のサポートの体制を構築できるよう計画を進めたい。 ・進路未定者を0にできるよう工夫を重ねる。
			・企業説明会・進学説明会、オープンキャンパス等への積極的な参加を促し、進路ガイダンスやキャリア講演会等を通して生徒に明確な進路目標を持たせる。	・体験入学や就職説明会への参加を促し、進路決定へとつなげる。 ・進路ガイダンス及びキャリア講演会の更なる充実を図る。	A	校内進路ガイダンスや校外説明会等、積極的に参加を呼びかけたところ多くの参加を得た。	
			・進路 LHR や個別相談等でサポートステーション和歌山と連携し、生徒の進路意識を高める。	・サポートステーション和歌山と連携し、多面的に生徒をサポートする。	B	サポートステーション和歌山との連携により校内で活動を行っていただいたが、参加生徒が限定的であった。	
3	・生徒を支援する制度の充実と全教員による組織的な支援と指導を行うことで、生徒の個性に応じた学びの実現に取り組む。	B	・指導方針・生徒の状況等について全教員の共通理解を図り、多様な問題行動に対する適切な指導方法等を組織的に検討していく。	・生徒情報を共有するために、職員会議等で常に情報交換を行うと共に、「個人記録カード」の活用の充実を図る。	C	生徒情報の共有がやや不十分な点があった。個人記録カードの入力の呼びかけも少なかったため、活用ができなかった。	・多様化する生徒に応じた支援を充実させるため、外部機関や保護者との情報交換の機会を確保する。 ・居場所事業の見直しを行い、今後の進め方やあり方を再構築する。 ・生徒情報の共有に努め、個人記録カードの活用をすすめる。
			・生徒の課題を早期に発見し、登校・授業参加の動機付けのため、課題を早期に発見し、支援委員会を開催し、生徒支援の充実を図る。 ・SC・SSW 等を更に活用し、関係機関との連携に努め、迅速・適切な対応を図る。	・「居場所」により生徒支援の充実を図り、不登校の解消や授業参加率を高める。 ・支援委員会を定期的に開き、関係機関との連携を図る。 ・保護者との連絡、面談や家庭訪問の機会を増やす。	B	居場所事業は「こはうす」様に協力をいただいたが、もう少し多くの生徒が参加できるよう周知を図るべきであった。支援委員会は定期的に開催できた。	
			・交通講話や非行防止教室を通して交通安全や薬物乱用に対する意識の向上を図る。	・警察署等の関係機関から講師を招聘して講演会等を開催する。	A	法務少年支援センターから講師を招き、現職教育を行った。また臨床心理士による現職教育を行い、生徒理解を深めた。	
4	・ICT機器を積極的に活用し、生徒の情報活用能力の向上、教職員の勤務環境の改善及び地域への有用な情報発信を図る。	C	・全教員が日常的にICTを活用し、生徒の学習効果を高める。	・ICTを活用した学習支援を充実させ、学習の質と機会の充実を図る。	B	Microsoft 社の Teams や Forms を活用し、学習支援の充実に努めたが、授業での活用は一部にとどまった。	・ICTの活用をさらに進め、学習の質と機会の充実を図る。 ・ICTを活用することで校務の効率化をさらに進める。 ・HPによる情報発信をさらに充実させ、定期的な更新に努める。 ・教職員に「採点ナビ」の活用を促していく。
			・教職員の勤務環境を改善するため、ICTを有効活用し、業務の効率化を図る。	・学校と生徒及び保護者間の連絡のデジタル化を推進する。	B	欠席連絡やアンケート調査において、デジタル化を進めた。	
			・有用な情報を発信することで、生徒や家庭、地域との連携を深める。	・本校のHPをリニューアルし、有用な情報を分かりやすく掲載するとともに定期的な更新を行う。	B	HPがリニューアルし、有用な情報を発信した。定期的な更新にはやや不十分な点があった。	

学校関係者評価（1月22日実施）

○以下の評価項目について、高い評価をいただいた。
・本校の生徒は明るく生き生きと学校生活を送っているか。
・本校の教育活動に保護者や地域の意見を取り入れているか。
・本校には他校にない特色があるか。
・本校では、基本的な生活習慣や規範意識を身に付けるため適切な指導が行われているか。
・本校では、生徒が将来社会人として生きていくための取組は十分行われているか。
・本校の学校行事等は充実しているか。
・本校では、生徒の健康や安全に関する指導が適切に行われているか。
・本校では、校舎、校庭、教室の環境美化や整理整頓ができているか。

○以下の評価項目について、次年度に向け改善を要するとの評価をいただいた。
・本校の教育目標はわかりやすく示されているか。
・本校は保護者や地域の方々と連絡・連携がうまくとれているか。
・本校は生徒に対して分かりやすく充実した授業を行っているか。
・本校の生徒会活動や部活動は活発であるか。
・本校では、進路に関する情報提供に努めていると思うか。
・本校の施設・設備が充実しているか。

○以下の意見をいただいた。
・本校生徒会の生徒との懇談を通じて、本校の教育活動を理解することができた。加えて文化祭を見学し、生徒達が生き生きと活動している様子に触れたり、対話したりすることを通じ、お褒めの言葉をいただいた。今後、関係機関との連携の深化、地域連携（防災活動）等の取組について次年度につなげてもらいたい。